

HP OMi Management Pack for Microsoft SQL Server

ソフトウェアバージョン: 1.00

HP Operations Manager i (Linux および Windows® オペレーティング システム)

インストールガイド

ドキュメントリリース日: 2015 年 1 月

ソフトウェアリリース日: 2014 年 2 月



ご注意

保証

HP 製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR 12.211 および 12.212 の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2014 - 2015 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe® は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

Microsoft® および Windows® は、Microsoft グループの米国における登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation およびその関連会社の登録商標です。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに更新されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。 <https://softwaresupport.hp.com/group/softwaresupport/search-result?keyword=>

このサイトを利用するには、HP Passport のアカウントが必要です。アカウントをお持ちでない場合は、HP Passport のサインイン ページで **[アカウントを作成してください]** ボタンをクリックしてください。

サポート

次の HP ソフトウェアサポートの Web サイトを参照してください。 <https://softwaresupport.hp.com>

このサイトでは、HP のお客様窓口のほか、HP ソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HP ソフトウェア サポート オンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HP ソフトウェアサポートの Web サイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passport ユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport ID を登録するには、 <https://softwaresupport.hp.com> にアクセスして **[Register]** をクリックしてください。

アクセスレベルの詳細については、次の Web サイトをご覧ください。 <https://softwaresupport.hp.com/web/softwaresupport/access-levels>

HP Software Solutions & Integrations and Best Practices

HP Software Solutions Now (<https://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp>) を参照してください。このサイトでは、HP ソフトウェアのカタログに記載された製品の説明を確認したり、情報を交換したり、ビジネス ニーズを解決することができます。

Cross Portfolio Best Practices Library (<https://hpln.hp.com/group/best-practices-hpsw>) からは、さまざまな ベスト プラクティス文書や資料にアクセスすることができます。

目次

第1章: はじめに	6
このマニュアルで使われている略語	6
関連ドキュメント	7
ライセンス	7
第2章: OMi MP for Microsoft SQL Server のインストール	8
インストールメディア	8
インストールの前提条件	9
ハードウェア要件	9
ソフトウェア要件	9
BSM サーバでのソフトウェア要件	9
OMi サーバでのソフトウェア要件	10
インストール時のチェックリスト	11
BSM サーバ用チェックリスト	11
OMi サーバ用チェックリスト	12
その他の BSM DPS 更新の BSM 9.23 へのインストール	13
OMi MP for Infrastructure バージョン 1.10 のインストール	15
BSM または OMi での OMi MP for Microsoft SQL Server バージョン 1.00 のインストール	15
Linux BSM または OMi サーバの場合	15
Windows BSM または OMi サーバの場合	17
ライセンスの適用	18
Operations Orchestration (OO) フローのインストール	19
OO フローのアップロード	19
OMi MP for Microsoft SQL Server のインストールの確認	20
第3章: 作業の開始	22
BSM コンソールでの作業の開始	22
タスク 1: BSM コンソールへのノードの追加	22
タスク 2: トポロジ同期設定の指定	23
タスク 3: Microsoft SQL Server 検出アスペクトのデプロイ	23
タスク 4: 検出の確認	24
タスク 5: Microsoft SQL Server 管理テンプレートまたは Microsoft SQL Server アスペクトのデプロイ	24

タスク 5a: Microsoft SQL Server 管理テンプレートのデプロイ	24
タスク 5b: Microsoft SQL Server アスペクトのデプロイ	27
OMi コンソールでの作業の開始	27
タスク 1: OMi コンソールへのノードの追加	27
タスク 2: トポロジ同期設定の指定	28
タスク 3: Microsoft SQL Server 検出アスペクトのデプロイ	28
タスク 4: 検出の確認	29
タスク 5: Microsoft SQL Server 管理テンプレートまたは Microsoft SQL アスペクトのデプロイ	29
タスク 5a: Microsoft SQL Server 管理テンプレートのデプロイ	29
タスク 5b: Microsoft SQL アスペクトのデプロイ	32
ドキュメントのフィードバックを送信	33

第1章: はじめに

HP OMi Management Pack for Microsoft SQL Server (OMi MP for Microsoft SQL Server) は HP Operations Manager i (OMi) とともに動作し、Business Service Management (BSM) を使用してユーザー環境内で稼働する Microsoft SQL Server と基盤インフラストラクチャの監視を可能にします。OMi MP for Microsoft SQL Server では、Microsoft SQL Server の状況やステータスを監視する目的で、次のコンポーネントが提供されています。

注: コンポーネントの詳細は、OMi Management Pack for Microsoft SQL Server のオンラインヘルプまたはオンラインヘルプのPDF版を参照してください。

- Microsoft SQL Server 管理テンプレート
- Microsoft SQL Server のアспектおよびポリシーテンプレート
- パラメータ
- 構成アイテム (CI) と構成アイテムタイプ (CIT)
- ランタイムサービスモデル (RTSM) のビュー
- 状況インジケータ (HI)
- イベントタイプインジケータ (ETI)
- トポロジベースのイベント相関処理 (TBEC) ルール
- Operations Orchestration (OO) フロー
- ツール
- グラフテンプレート

このマニュアルで使われている略語

名称	説明
BSM	Business Service Management
OMi	HP Operations Manager i
RTSM	ランタイムサービスモデル
MPDVD	OMi Management Pack for Microsoft SQL Server DVD

名称	説明
BSM DPS	BSM データ処理 サーバ
BSM GWS	BSM ゲートウェイ サーバ
OMi MP	HP OMi Management Pack
OMi MP for Microsoft SQL Server	HP OMi Management Pack for Microsoft SQL Server

関連ドキュメント

BSM および Monitoring Automation についての詳細は、BSM マニュアルを参照してください。

OMi についての詳細は、次のドキュメントを参照してください。

OMi MP for Microsoft SQL Server の詳細は、次のドキュメントを参照してください。

- リリースノート
- オンライン ヘルプの PDF 版

ライセンス

OMi MP のライセンスは、25 ライセンスがパッケージで提供されます。アプリケーションのタイプに関わらず、OS インスタンスごとに 1 ライセンスを使用します。たとえば、ライセンス パックには、OMi MP for Microsoft SQL Server のライセンス 5 個、OMi MP for Oracle Database のライセンス 10 個を、サポートされているその他のアプリケーションと組み合わせて含めることができます。

Entitlement Order Number (EON) のライセンスを取得するには、www.hp.com/software/licensing にアクセスし、HP Passport の資格情報でログインします。

ライセンスの適用の詳細は、「[ライセンスの適用](#)」を参照してください。

第2章: OMi MP for Microsoft SQL Server のインストール



この項では、BSM サーバ(Linux and Windows) および OMi サーバ(Linux and Windows) での OMi MP for Microsoft SQL Server のインストールについて説明します。

インストールメディア

この項では、OMi MP for Microsoft SQL Server のインストールメディアについて説明します。OMi MP for Microsoft SQL Server は OMi MP for Microsoft SQL Server DVD (MPDVD) および電子メディアに収録されています。MPDVD および電子メディアは、英語および英語以外のロケール環境に対応しています。ロケール要件に基づき、適切なインストールメディアを使用できます。

OMi MP for Microsoft SQL Server DVD および電子メディアには、ソフトウェアおよび製品 マニュアルが収録されています。分散環境では、すべての BSM データ処理 サーバ(BSM DPS) とゲートウェイ サーバ(BSM GWS) にインストールする必要があります。

次の表に、MPDVD と電子メディアに収録されているドキュメントの情報を記します。

ドキュメント	場所	目的
オンライン ヘルプ	BSM コンソールの [ヘルプ] メニューで利用できます。 BSM コンソールから、 [ヘルプ] > [BSM ヘルプ] > [Application Administration] > [Operations Management] > [OMi Management Pack for Microsoft SQL Server] に移動します。 OMi コンソールの  メニューから使用可能。 OMi コンソールから、  >[全般的なヘルプ] > [管理ガイド] > [管理パック] > [OMi Management Pack for Microsoft SQL Server] に移動します。	次の情報を提供します。 <ul style="list-style-type: none">Microsoft SQL Server 管理テンプレートの使用Microsoft SQL Server のアスペクトおよびポリシーテンプレートの使用HI と ETI の各インジケータおよび TBEC ルールの使用
インストールガイド	<MPDVD>\DOCUMENTATION\en	
オンライン ヘルプの PDF 版	<MPDVD>\DOCUMENTATION\en	

ドキュメント	場所	目的
リリースノート	<MPDVD>\DOCUMENTATION\en	次の情報を提供します。 <ul style="list-style-type: none">• 主要な機能• インストールについて

インストールの前提条件

以下の項では、BSM (Linux および Windows) サーバおよび OMi (Linux および Windows) サーバでの OMi MP for Microsoft SQL Server のインストールに関するハードウェアおよびソフトウェアの前提条件を一覧表示します。また、Microsoft SQL Server データベースの監視を行うための前提条件についても説明します。

ハードウェア要件

特定のハードウェア要件については、『BSM インストールガイド』を参照してください。

ソフトウェア要件

OMi MP for Oracle Database を BSM サーバ (Windows または Linux) にインストールするためのソフトウェア要件の詳細は、「[BSM サーバでのソフトウェア要件](#)」を参照してください。

OMi MP for Oracle Database を OMi サーバ (Windows または Linux) にインストールするためのソフトウェア要件の詳細は、「[OMi サーバでのソフトウェア要件](#)」を参照してください。

BSM サーバでのソフトウェア要件

OMi MP for Microsoft SQL Server をインストールする前に、BSM サーバへ以下のコンポーネントをインストールし、構成する必要があります。

BSM サーバ

コンポーネント	バージョン
BSM	9.23 以降*
HP Operations Manager i	9.23 以降*
HP Monitoring Automation	9.23 以降*

コンポーネント	バージョン
OMi MP for Infrastructure	1.10

* サポートされている最新バージョンについては、サポート マトリックスを参照してください。

注: 大規模環境では、BSM 9.24 の使用をお勧めします。

管理対象ノード

コンポーネント	バージョン
Operations Agent	11.13 以降*

* サポートされている最新バージョンについては、サポート マトリックスを参照してください。

SiteScope サーバ

コンポーネント	バージョン
SiteScope	11.22 以降*

* サポートされている最新バージョンについては、サポート マトリックスを参照してください。

注: ハイブリッド Microsoft SQL Server 管理テンプレートをデプロイする場合、SiteScope 11.22 以上のバージョンをインストールする必要があります。

OMi サーバでのソフトウェア要件

OMi MP for Microsoft SQL Server をインストールする前に、OMi サーバへ以下のコンポーネントをインストールし、構成する必要があります。

OMi サーバ

コンポーネント	バージョン
HP Operations Manager i	9.23 以降*
OMi MP for Infrastructure	1.10

* サポートされている最新バージョンについては、サポート マトリックスを参照してください。

注: 大規模環境では、BSM 9.24 の使用をお勧めします。

管理対象ノード

コンポーネント	バージョン
Operations Agent	11.13 以降*

* サポートされている最新バージョンについては、サポート マトリックスを参照してください。

SiteScope サーバ

コンポーネント	バージョン
SiteScope	11.22 以降*

* サポートされている最新バージョンについては、サポート マトリックスを参照してください。

注: ハイブリッド Microsoft SQL Server 管理テンプレートをデプロイする場合、SiteScope 11.22 以上のバージョンをインストールする必要があります。

インストール時のチェックリスト

OMi MP for Microsoft SQL Server を BSM サーバにインストールする場合は、「[BSM サーバ用チェックリスト](#)」を参照してください。

OMi MP for Microsoft SQL Server を OMi サーバにインストールする場合は、「[OMi サーバ用チェックリスト](#)」を参照してください。

BSM サーバ用チェックリスト

OMi Management Pack for Microsoft SQL Server のインストールでは、次の表にまとめた作業を事前に完了しておく必要があります。

管理対象サーバ

タスク	参照先
BSM のインストールに必要な前提条件のチェック	『BSM インストールガイド』の「一般的な前提条件」を参照してください。
BSM バージョン 9.20 および BSM 9.23 以上の Service Pack のインストール	『BSM インストールガイド』の「BSM 9.20 のインストール」と「最新の BSM 9.2x マイナー マイナーリリースとパッチのインストール」を参照してください。

タスク	参照先
Monitoring Automation バージョン 9.23 以降のインストール	『Monitoring Automation for HP Operations Manager i インストールガイド』の「インストールの前提条件」と「BSM サーバーでの Monitoring Automation のインストールと構成」の章を参照してください。
Monitoring Automation のインストールの確認	『Monitoring Automation for HP Operations Manager i インストールガイド』の Monitoring Automation のインストールの確認と操作に関する章を参照してください。
その他の BSM DPS 更新の BSM 9.23 でのインストール	「その他の BSM DPS 更新の BSM 9.23 へのインストール」 の項を参照してください。この更新は BSM 9.23 にのみ必要で、これより上のバージョンには必要ありません。
OMi MP for Infrastructure 1.10 のインストール	『OMi Management Pack for Infrastructure インストールガイド』の「OMi MP for Infrastructure 1.10 のインストール」の章を参照してください。
OMi MP for Microsoft SQL Server 1.00 のインストール	「OMi MP for Microsoft SQL Server 1.00 の BSM でのインストール」 の項を参照してください。
ライセンスの適用	「ライセンスの適用」 の項を参照してください。

管理対象ノード

タスク	参照先
HP Operations Agent 11.13 のインストール	『HP Operations Agent および HP Operations Smart Plug-ins for Infrastructure インストールガイド』の「Installing the HP Operations agent 11.13 (HP Operations Agent 11.13 のインストール)」を参照してください。

OMi サーバ用チェックリスト

管理対象サーバ

タスク	参照先
OMi MP for Infrastructure 1.10 のインストール	『OMi Management Pack for Infrastructure インストールガイド』の「OMi MP for Infrastructure 1.10 のインストール」を参照してください。
OMi MP for Microsoft SQL Server 1.00 のインストール	「BSM での OMi MP for Microsoft SQL Server 1.00 のインストール」 の項を参照してください。

タスク	参照先
ライセンスの適用	「 ライセンスの適用 」の項を参照してください。

管理対象ノード

タスク	参照先
HP Operations Agent 11.13 のインストール	『HP Operations Agent および HP Operations Smart Plug-ins for Infrastructure インストールガイド』の「Installing the HP Operations agent 11.13 (HP Operations Agent 11.13 のインストール)」を参照してください。

その他の BSM DPS 更新の BSM 9.23 へのインストール

OMi MP for Microsoft SQL Server をインストールする前に、次の BSM DPS 更新を BSM DPS のみにインストールする必要があります。この更新は MPDVD に収録されています。

注: BSM の一般的なサーバには、この追加の BSM DPS 更新は必要ありません。

注: この更新は BSM 9.23 にのみ必要で、これより上のバージョンには必要ありません。

更新をインストールするには、次の手順を実行します。

Linux 上の BSM DPS の場合:

1. 次のコマンドを実行して `opr-config-content-server.war` のバージョンを確認します。

```
cd /opt/HP/BSM/opr/webapps
```

```
/opt/HP/BSM/opr/support/what.sh ./opr-config-content-server.war
```

バージョンが 09.23.171 の場合は、次の手順を実行します。それ以外の場合は手順をスキップして「[BSM または OMi での OMi MP for Microsoft SQL Server バージョン 1.00 のインストール](#)」。

2. 以下の手順を実行して、新しい `.war` ファイル `opr-config-content-server.war` を適用します。
 - a. **BSM DPS** を停止します。
 - b. 次のコマンドを使用して、既存の `opr-config-content-server.war` ファイルをバックアップします。

```
mv ./opr-config-content-server.war ./orig_opr-config-content-server.war
```
 - c. MPDVD をマウントし、`<MPDVD>/MA_DPS.war/` の `opr-config-content-server.zip` をコピーして、`/opt/HP/BSM/Temp` に置きます。
 - d. `.zip` ファイル `opr-config-content-server.zip` を `/opt/HP/BSM/Temp` に解凍します。

- e. 解凍した opr-config-content-server.war ファイルを /opt/HP/BSM/opr/webapps に移動します。

```
mv /opt/HP/BSM/Temp/opr-config-content-server.war /opt/HP/BSM/opr/webapps
```

- f. 次のコマンドを実行します。

```
/opt/HP/BSM/opr/bin/oprcfg-configuration.sh -setup omi -noGW
```

- g. **BSM** を開始します。

Windows 上の BSM DPS の場合:

1. 次のコマンドを実行してバージョン番号をチェックします。

```
cd %TOPAZ_HOME%\opr\webapps
```

```
cscript %TOPAZ_HOME%\opr\support\what.vbs opr-config-content-server.war
```

バージョンが 09.23.171 の場合は、次の手順に進みます。それ以外の場合は次の手順をスキップして「[BSM または OMi での OMi MP for Microsoft SQL Server バージョン 1.00 のインストール](#)」に移動します。

2. 新しい .war ファイル opr-config-content-server.war を適用するため、以下の手順を実行します。
 - a. **BSM DPS** を停止します。

- b. 既存の opr-config-content-server.war ファイルをバックアップします。

```
move opr-config-content-server.war orig_opr-config-content-server.war
```

- c. MPDVD をマウントまたは解凍し、<MPDVD>\MA_DPS.war\ から opr-config-content-server.zip をコピーして、%TOPAZ_HOME%\Temp に置きます。

- d. zip ファイル opr-config-content-server.zip を %TOPAZ_HOME%\Temp に解凍します。

- e. 解凍した opr-config-content-server.war ファイルを %TOPAZ_HOME%\Temp から %TOPAZ_HOME%\opr\webapps に移動します。

```
cd %TOPAZ_HOME%\Temp\
```

```
move opr-config-content-server.war %TOPAZ_HOME%\opr\webapps
```

- f. 以下のコマンドを実行します。

```
cd %TOPAZ_HOME%\opr\bin
```

```
cscript /nologo oprcfg-configuration.vbs -setup omi -noGW
```

- g. **BSM** を開始します。

OMi MP for Infrastructure バージョン 1.10 のインストール

OMi MP for Infrastructure バージョン 1.10 のインストールの詳細は、『OMi Management Pack for Infrastructure インストールガイド』の「BSM での OMi MP for Infrastructure バージョン 1.10 のインストール」の章を参照してください。

BSM または OMi での OMi MP for Microsoft SQL Server バージョン 1.00 のインストール

OMi MP for Microsoft SQL Server を BSM サーバ(Linux または Windows) または OMi サーバ(Linux または Windows) にインストールするには、MPDVD を使用します。この項では、OMi MP for Microsoft SQL Server を BSM サーバまたは OMi サーバにインストールする手順について説明します。

注: BSM 分散環境では、OMi MP for Microsoft SQL Server がすべての BSM サーバ(BSM DPS および BSM GWS) にインストールされている必要があります。インストールを進める前に、Monitoring Automation が実行中であることを確認する必要があります。ステータスを確認するには、BSM コンソールにログオンし、[管理] > [セットアップと保守] > [サーバデプロイメント] に移動して、Monitoring Automation が有効かどうかを確認します。

Linux BSM または OMi サーバの場合

OMi MP for Microsoft SQL Server を Linux BSM/OMi サーバにインストールするには、以下の手順を実行します。

1. root ユーザとしてログオンします。
2. コマンド `umask 022` を入力して、`umask` を設定します。
3. コマンド `mkdir /<mount_point>` を入力して、DVD または電子メディアをマウントするディレクトリを作成します。

例: `mkdir /dvdrom`

4. DVD をディスクドライブに挿入するか、電子メディアのインストールパッケージをコピーし、次のコマンドを使用してマウントします。

DVD の場合: `mount /dev/<dvdrom_drive_name> /<mount_point>`

電子メディアの場合: `mount -o loop <e-media> /<mount_point>`

5. ディレクトリを `/<mount_point>` に変更します。
6. 次のコマンドを実行します。

```
./mpinstall.sh -i [-h|help]
```

次の表を参照して、ロケールに応じたコマンドを実行します。

DVD	MP ロケールが BSM ロケールと同じ場合	MP ロケールが BSM ロケールと異なる場合
英語の DVD	<code>./mpinstall.sh -i</code>	<code>./mpinstall.sh -i</code>
英語以外の DVD	<code>./mpinstall.sh -i</code>	<code>./mpinstall.sh -i -locale <mplocale></code>

例: BSM が簡体中国語ロケールではない場合に、簡体中国語ロケールで OMi MP for Microsoft SQL Server をインストールするには、次のコマンドを指定します。

```
./mpinstall.sh -i -locale zh_CN
```

注: 次のコマンド オプションを使用できます。

```
mpinstall.sh -i [-locale <MP ロケール>] [-h|help]
```

`-i`: Management Pack をインストールします。

`-locale`: インストールするロケール専用の Management Pack。

`-h|-help`: ヘルプメッセージを表示します。

<MP ロケール> は次のように指定できます。

- zh_CN: 簡体中国語ロケール
- ja: 日本語ロケール
- de: ドイツ語ロケール
- fr: フランス語ロケール
- es: スペイン語ロケール
- ko: 韓国語ロケール
- ru: ロシア語ロケール

7. エンドユーザ使用許諾契約書 (EULA) に同意する場合は、**Yes** または **Y** と入力します。使用許諾契約書に同意しない場合は、**No** または **N** と入力します。

注: 使用許諾契約書 (EULA) に同意しない場合、OMi MP for Microsoft SQL Server はインストールされません。

インストールが完了すると、HP OMi Management Pack for Microsoft SQL Server のインストールが終了したことを示すメッセージが表示されます。

Windows BSM または OMi サーバの場合

OMi MP for Microsoft SQL Server を Windows BSM または OMi サーバにインストールするには、以下の手順を実行します。x

1. DVD をディスクドライブに挿入するか、電子メディアのインストールパッケージをコピーし、展開します。
2. コマンド プロンプトを開き、<DVD-ROM> または電子メディアのディレクトリに移動して、次のコマンドを実行します。

```
cscript /nologo mpinstall.vbs -i [-locale <mplocale>] [-h|-help]
```

次の表を参照して、ロケールに応じたコマンドを実行します。

DVD	MP ロケールが BSM ロケールと同じ場合	MP ロケールが BSM ロケールと異なる場合
英語の DVD	<code>cscript /nologo mpinstall.vbs -i</code>	<code>cscript /nologo mpinstall.vbs -i</code>
英語以外の DVD	<code>cscript /nologo mpinstall.vbs -i</code>	<code>cscript /nologo mpinstall.vbs -i -locale <MP のロケール></code>

例: BSM が簡体中国語ロケールではない場合に、簡体中国語ロケールで OMi MP for Microsoft SQL Server をインストールするには、次のコマンドを実行します。

```
cscript /nologo mpinstall.vbs -i -locale zh_CN
```

注: 次のコマンド オプションを使用できます。

```
cscript /nologo mpinstall.vbs -i [-locale <MP ロケール>] [-h|help]
```

`-i:` Management Pack をインストールします。

-locale: インストールするロケール専用の Management Pack。

-h|-help: ヘルプメッセージを表示します。

<MP ロケール> は次のように指定できます。

- zh_CN: 簡体中国語ロケール
- ja: 日本語ロケール
- de: ドイツ語ロケール
- fr: フランス語ロケール
- es: スペイン語ロケール
- ko: 韓国語ロケール
- ru: ロシア語ロケール

3. エンドユーザ使用許諾契約書 (EULA) に同意する場合は、**Yes** または **Y** と入力します。使用許諾契約書に同意しない場合は、**No** または **N** と入力します。

インストールが完了すると、HP OMi Management Pack for Microsoft SQL Server のインストールが終了したことを示すメッセージが表示されます。

ライセンスの適用

この項では、ライセンスの更新とアクティブ化について説明します。

注: ライセンスの取得の詳細は、「[ライセンス](#)」を参照してください。

新しいライセンスでデプロイメントを更新し、ライセンスをアクティブ化するには、次の手順を実行します。

1. [ライセンス管理] に移動します。

BSM で [管理] > [プラットフォーム] > [セットアップと保守] > [ライセンス管理] をクリックします。

OMi では、[管理] > [セットアップと保守] > [ライセンス管理] をクリックします。

ライセンス管理では、名前、ライセンスのタイプ、期限切れまでの残り日数、有効期限、ライセンス数などの情報が表示されます。

2.  をクリックして [ライセンスの追加] ダイアログボックスを開き、使用する .dat ファイルを検索します。

注: .dat ファイルは www.hp.com/software/licensing からダウンロードできます。

注: インストール後のライセンスアクティブ化には遅延があります。ライセンスが自動的にアクティブ化されない場合、ステップ3を実行する必要があります。

3. (オプション)ライセンスをアクティブ化するには、[ライセンス管理] ウィンドウの下にある [サーバデプロイメント] リンクをクリックします。

注: OMi MP for Microsoft SQL Server の場合、すべての Microsoft SQL Server インスタンスを無効にすると、ライセンス数はゼロになります。有効な Microsoft SQL Server インスタンスがある場合、ライセンス数は1になります。

dbspimsscol OFF コマンドで収集を無効にすると、OMi MP for Microsoft SQL Server インスタンスの数は1になります。

Operations Orchestration (OO) フローのインストール

OMi MP for Microsoft SQL Server の OO フローでは、IT プロセスの自動化とランブックの自動化が可能です。OO フローの詳細は、Operations Orchestration のドキュメントを参照してください。次の項では、OMi MP for Microsoft SQL Server での HP OO Studio (バージョン 9.0x) の OO フローのインストールについて説明します。

注: OMi MP for Microsoft SQL Server に付属する OO フローは、HP Operations Manager (HPOM) サーバで管理される Smart Plug-in でアプリケーションを監視するデプロイメントシナリオでのみ使用できます。この場合、OMi MP for Microsoft SQL Server に含まれた OO フローを OO サーバにインストールし、OMi-OO 統合を通じて OO フローを起動できます。OMi-OO 統合の詳細は、『BSM - Operations Orchestration Integration Guide』を参照してください。

OO フローのアップロード

OMi MP for Microsoft SQL Server から OO フローをアップロードするには、次の手順を実行します。

1. BSM で次のディレクトリに移動します。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/conf/opr/oo
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\conf\opr\oo
```

2. **HP0pr00Mss90.jar** を、HP OO Studio (バージョン 9.0x) がインストールされているシステムの一時的ディレクトリにコピーします。

次のコマンドを実行して、OO フローをインストールおよびアップロードします。

```
java -jar -Xmx1024m "<temp>/HP0pr00Mss90" -centralPassword <centralpassword>
```

注: コンテンツのインストールの詳細は、『HP Operations Orchestration Software Development Kit Guide』の「Installing the content」を参照してください。

HP OO Studio を使用して、次の場所から OO フローにアクセスできます。

../Library/Operations Management/..

3. BSM コンソールから、OO フローを CI にマッピングし、OO フローの入力変数を CI 属性にマッピングします。

BSM では、**[管理]** > **[統合]** > **[Operations Orchestration]** をクリックします。

OMi では、**[管理]** > **[操作コンソール]** > **[ランブックマッピング]** をクリックします。

OMi MP for Microsoft SQL Server のインストールの確認

この項では、Linux および Windows BSM サーバでの OMi MP for Microsoft SQL Server のインストールの確認について説明します。

OMi MP for Microsoft SQL Server のインストールは、次の手順で確認できます。

- 以下の場所で BSM GWS、BSM DPS、および BSM の一般サーバのログファイルのエラーをチェックします。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/log/mpinstall.log
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\log\mpinstall.log
```

- 次の場所をチェックします。

BSM では、**[管理]** > **[オペレーション管理]** > **[セットアップ]** > **[コンテンツパック]** をクリックします。

[コンテンツパック定義] ペインに、**OMi Management Pack for Microsoft SQL Server** が表示されている必要があります。

OMi では、**[管理] > [セットアップと保守] > [コンテンツパック]** をクリックします。

[コンテンツパック定義] ペインに、**OMi Management Pack for Microsoft SQL Server** が表示されている必要があります。

- BSM サーバにインストールされている OMi MP をリストするには、以下のコマンドを実行します。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/bin/ContentManager.sh -username <BSMusername> -password <BSMpwd> -1
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\bin\ContentManager.bat -username <BSMusername> -password <BSMpwd> -1
```

注: ContentManager.bat または ContentManager.sh コマンドで、コンテンツパックの名前とバージョンがリスト表示されます。

注: 次の場所に、BSM GWS と BSM DPS の両方の OMi ログファイルがあります。

Linux の場合: /opt/HP/BSM/log/EJBContainer/opr-configserver.log

Windows の場合: %TOPAZ_HOME%\log\EJBContainer\opr-configserver.log

第3章: 作業の開始

この項では、OMi MP for Microsoft SQL Server を使用した Microsoft SQL Server インスタンスの監視に必要なタスクについて説明します。

BSM コンソールでの作業の開始の詳細については、「[BSM コンソールでの作業の開始](#)」を参照してください。

OMi コンソールでの作業の開始の詳細については、「[OMi コンソールでの作業の開始](#)」を参照してください。

BSM コンソールでの作業の開始

この項では、OMi MP for Microsoft SQL Server を使用した Microsoft SQL Server インスタンスの監視に必要なタスクについて説明します。

タスク 1: BSM コンソールへのノードの追加

注: RTSM にノードが既に存在する場合、このステップをスキップしてタスク 2 に進むことができます。

監視を始める前に、BSM コンソールにノードを追加する必要があります。

1. [オペレーション管理の管理] から [モニタ対象ノード] マネージャを開きます。

[管理] > [オペレーション管理] > [セットアップ] > [モニタ対象ノード]

2. [ノードビュー] ペインで [事前定義済みのノード フィルタ] > [モニタ対象ノード] をクリックし、* をクリックしてから、[Computer] > [Windows] をクリックします。[モニタ対象ノードの新規作成] ダイアログボックスが表示されます。
3. ノードの [プライマリ DNS 名]、[IP アドレス]、[オペレーティングシステム]、[プロセッサアーキテクチャ] を指定し、[OK] をクリックします。

新規に作成されたノードが CI インスタンスとして RTSM に保存されます。

注: Operations Agent が稼働するノードは、OMi サーバに対して有効にしてから、証明書を付与する必要があります。

タスク 2: トポロジ同期設定の指定

環境内に複数の HP Operations Manager (HPOM) サーバがあり、Smart Plug-in for Microsoft SQL Server (SPI for Microsoft SQL Server) で検出したトポロジ情報を OMi と同期する場合は、次の手順に従ってください。

1. [オペレーション管理の管理] から [インフラストラクチャ設定] を開きます。

[管理] > [プラットフォーム] > [セットアップと保守] > [インフラストラクチャ設定]

2. [インフラストラクチャ設定] マネージャで、[アプリケーション] > [オペレーション管理] を選択します。
3. [オペレーション管理] の [HPOM トポロジ同期設定] で、Topology Sync のパッケージにはトポロジ同期に使用するパッケージ (default;nodegroups;operations-agent;HPOprSys;HPOprMss) が含まれます。

タスク 3: Microsoft SQL Server 検出アスペクトのデプロイ

追加した管理対象ノード上の Microsoft SQL Server CI を検出するには、Microsoft SQL Server 検出アスペクトをデプロイする必要があります。

1. 次の手順で [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。

[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト]

2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

[構成フォルダ] > [データベース管理] > [Microsoft SQL Server] > [Microsoft SQL Server のアスペクト]

3. [Microsoft SQL Server のアスペクト] フォルダで **Microsoft SQL Server 検出アスペクト** を右クリックし、[項目の割り当てとデプロイ] をクリックして [割り当てとデプロイ] ウィザードを開きます。
4. [構成アイテム] タブで検出アスペクトをデプロイする構成アイテムをクリックし、[次へ] をクリックします。
5. [次へ] をクリックします。
6. (オプション) 割り当てを直ちに有効化しない場合は、[割り当てオブジェクトの有効化] チェックボックスを外します。[割り当ておよび調整] ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
7. [完了] をクリックします。

注: Microsoft SQL Server 検出アスペクトをデプロイすると、「割り当ておよびデプロイメント ジョブを作成しました」というメッセージが表示されます。[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [デプロイメント ジョブ] を選択し、デプロイメント ジョブのステータスを確認します。

タスク 4: 検出の確認

Microsoft SQL Server 検出アスペクトをデプロイした後、トップビューに CI が表示されていることを確認する必要があります。

トップビューの CI を表示するには、次の手順を実行します。

1. BSM コンソールで **[MyBSM]** をクリックします。
2. ドロップダウンリストから **[トップ ビュー]** を選択します。[トップ ビュー] ページが表示されます。
3. [トップ ビュー] ページで **MSSQL_Cluster_Deployment** または **MSSQL_Database_Deployment** ビューを選択します。トップビューに CI が表示されています。

タスク 5: Microsoft SQL Server 管理テンプレートまたは Microsoft SQL Server アスペクトのデプロイ

Monitoring Automation for Composite Applications ライセンスを使用している場合、Microsoft SQL Server 管理テンプレートまたは Microsoft SQL Server アスペクトを SQL CI にデプロイできます。Microsoft SQL 管理テンプレートのデプロイの詳細は、「[タスク 5a: Microsoft SQL Server 管理テンプレートのデプロイ](#)」を参照してください。

Monitoring Automation for Servers ライセンスを使用している場合、Microsoft SQL Server アスペクトをデプロイできます。Microsoft SQL アスペクトのデプロイの詳細は、「[タスク 5b: Microsoft SQL Server アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。

タスク 5a: Microsoft SQL Server 管理テンプレートのデプロイ

CI が SiteScope や DDM などの他のソースによってすでに設定されていても、Microsoft SQL Server 検出アスペクトのデプロイは必要です。詳細については、「[タスク 3: Microsoft SQL Server 検出アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。

Microsoft SQL Server 管理テンプレートをデプロイする前に、次の推奨事項に従って、それぞれの環境に適した Microsoft SQL Server 管理テンプレートを特定する必要があります。

- スタンドアロンの Microsoft SQL Server 環境を監視する場合は、**詳細 Microsoft SQL Server 管理テンプレート**をデプロイします。
- Microsoft SQL Server クラスタ環境の基本的な機能を監視する場合は、**基本 Microsoft SQL Server クラスタ管理テンプレート**をデプロイします。
- Microsoft SQL Server クラスタ環境の詳細な監視を行う場合は、**詳細 Microsoft SQL Server クラスタ管理テンプレート**をデプロイします。

- エージェントおよびエージェントレス監視を行うには、**ハイブリッド Microsoft SQL Server 管理テンプレート**をデプロイします。


Microsoft SQL Server 管理テンプレートを Microsoft SQL Server CI にデプロイするには、次の手順を実行します。

1. [管理テンプレートおよびアспект]を開きます。

[管理]> [オペレーション管理]> [モニタリング]> [管理テンプレートおよびアспект]

2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

[構成フォルダ]> [Microsoft SQL Server]> [Microsoft SQL Server 管理テンプレート]

3. [Microsoft SQL Server 管理テンプレート] フォルダでデプロイする管理テンプレートをクリックし、 をクリックします。[割り当てとデプロイ] ウィザードが開きます。
4. [構成アイテム] タブで管理テンプレートを割り当てる CI をクリックし、[次へ] をクリックします。
5. (オプション) [必要なパラメータ] タブで、環境に基づいたパラメータを指定する必要があります。

注: Windows 認証を使用する Microsoft SQL Server の場合: ドメイン名、ユーザ名、パスワードを指定する必要はありません。

混在モード認証の場合: SQL Server ユーザのユーザ名とパスワードを指定する必要があります。






Microsoft SQL Server ドメイン認証の場合: システムのユーザ名、ドメイン名、パスワードを指定する必要があります。


ハイブリッド Microsoft SQL Server 管理テンプレートの場合: 割り当ては SQL Server 認証によってサポートされます。

注: 管理テンプレートのデプロイ時に入力したユーザ名は、Microsoft SQL Server への接続と OMi MP for Microsoft SQL Server を監視するためのデータの収集に必要な権限を持つ必要があります。以下はそのガイドラインです。

- admin によって作成された事前定義ユーザ名がある場合は、管理テンプレートのデプロイ時にそのユーザ名を使用することができます。
- Management Pack によって提供されたユーザ作成ツールを明示的に使用する場合は、ユーザ名とパスワードを入力せずに管理テンプレートをデプロイする必要があります。これらは必須パラメータではないからです。

管理テンプレートをデプロイし、すべてのファイルがデプロイされた後に、ユーザ作成ツールを実行してユーザを作成し、監視を行う際にユーザ名とパスワードを更新します。

- a. リストの **[Microsoft SQL Server インスタンス ユーザ名]** パラメータを選択して、 をクリックします。[Microsoft SQL Server インスタンス ユーザ名] ダイアログボックスが開きます。
 - b. **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。
 - c. リストの **[Microsoft SQL Server インスタンス パスワード]** パラメータを選択して、 をクリックします。[Microsoft SQL Server パスワード] ダイアログボックスが開きます。
 - d. **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。
 - e. リストの **[Microsoft SQL Server ドメイン名]** パラメータを選択して、 をクリックします。[Microsoft SQL Server ドメイン名] ダイアログボックスが開きます。
 - f. **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。
6. **[次へ]** をクリックして **[すべてのパラメータ]** に進みます。
7. **[すべてのパラメータ]** タブでは、パラメータのデフォルト値を変更できます。パラメータのデフォルト値を変更するには、次の手順を実行します。
- a. **[MSSQL Server インスタンス名]** パラメータを選択して、 をクリックします。[インスタンスパラメータの編集] ウィンドウが開きます。
 - b. リストでパラメータを選択して  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

注: **[すべてのパラメータ]** タブでは、パラメータのデフォルト値を上書きできます。各パラメータの値は、管理テンプレートレベルで指定できます。デフォルトでは、エキスパートパラメータとして定義されているパラメータは表示されません。エキスパートパラメータを表示するには、 **[エキスパートパラメータの表示]** をクリックします。

8. **[次へ]** をクリックします。
9. (オプション)**[構成オプション]** タブで、割り当てを直ちに有効化しない場合は **[割り当てオブジェクトの有効化]** チェックボックスを外します。**[割り当ておよび調整]** ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
10. **[完了]** をクリックします。

OMi MP for Microsoft SQL Server を使用した Microsoft SQL Server インスタンスの監視の詳細は、HP OMi Management Pack のオンラインヘルプまたはオンラインヘルプのPDF版を参照してください。

タスク 5b: Microsoft SQL Server アスペクトのデプロイ

CI が SiteScope や DDM などの他のソースによってすでに設定されていても、Microsoft SQL Server 検出アスペクトのデプロイは必要です。詳細については、「[タスク 3: Microsoft SQL Server 検出アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。

Microsoft SQL アスペクトを Microsoft SQL Server CI にデプロイするには、以下の手順を実行します。

1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。

[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト]

2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

[構成フォルダ] > [データベース管理] > [Microsoft SQL Server] > [Microsoft SQL Server のアスペクト]

3. [Microsoft SQL Server のアスペクト] フォルダで Microsoft SQL アスペクトを右クリックし、項目の [割り当てとデプロイ] をクリックして [割り当てとデプロイ] ウィザードを開きます。

4. [構成アイテム] タブでアスペクトをデプロイする構成アイテムをクリックし、[次へ] をクリックします。

5. [次へ] をクリックします。

6. (オプション) 割り当てを直ちに有効化しない場合は、[割り当てオブジェクトの有効化] チェックボックスを外します。[割り当ておよびパラメータ] ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。

7. [完了] をクリックします。

OMi コンソールでの作業の開始

ここでは、OMi MP for Microsoft SQL Server を使用した Microsoft SQL Server データベースの監視について手順を追って説明します。

タスク 1: OMi コンソールへのノードの追加

監視を始める前に、OMi コンソールにノードを追加する必要があります。

1. [管理] から [モニタ対象ノード] マネージャを開きます。

[管理] > [セットアップと保守] > [モニタ対象ノード]

2. [ノードビュー] ペインで [事前定義済みのノード フィルタ] > [モニタ対象ノード] をクリックします。

3. [モニタ対象ノード]-[事前定義済みのノード フィルタ] ペインで、* をクリックしてから、[Computer]>[Windows] をクリックします。[モニタ対象ノードの新規作成] ダイアログボックスが表示されます。
4. ノードの[プライマリDNS名]、[IPアドレス]、[オペレーティングシステム]、[プロセッサアーキテクチャ]を指定し、[OK] をクリックします。

新規に作成されたノードがCI インスタンスとして RTSM に保存されます。

注: Operations Agent が稼働するノードは、OMi サーバに対して有効にしてから、証明書を付与する必要があります。

タスク 2: トポロジ同期設定の指定

環境内に複数の HP Operations Manager (HPOM) サーバがあり、Smart Plug-in for Microsoft SQL Server (SPI for Microsoft SQL Server) で検出したトポロジ情報を OMi と同期する場合は、次の手順に従ってください。

1. [管理] から [インフラストラクチャ設定] を開きます。

[管理] > [セットアップと保守] > [インフラストラクチャ設定]

2. [インフラストラクチャ設定] マネージャで、[アプリケーション] > [オペレーション管理] を選択します。
3. [オペレーション管理] の [HPOM トポロジ同期設定] で、Topology Sync のパッケージにはトポロジ同期 (default;nodegroups;operations-agent;HPOprSys;HPOprMss) に使用するパッケージも含まれます。

タスク 3: Microsoft SQL Server 検出アスペクトのデプロイ

追加した管理対象ノード上の Microsoft SQL Server データベース CI を検出するには、Microsoft SQL Server データベース検出アスペクトをデプロイする必要があります。

1. 次の手順で [管理 テンプレート および アスペクト] ペインを開きます。

[管理] > [監視] > [管理 テンプレート および アスペクト]

2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

[構成フォルダ] > [データベース管理] > [Microsoft SQL Server] > [Microsoft SQL Server のアスペクト]

3. [Microsoft SQL Server のアスペクト] フォルダで Microsoft SQL Server データベース検出アスペクトを右クリックし、[項目の割り当てとデプロイ] をクリックすると、[割り当てとデプロイ] ウィザードが始まります。

4. **[構成アイテム]** タブで検出アスペクトをデプロイする CI をクリックし、**[次へ]** をクリックします。
5. **[次へ]** をクリックします。
6. (オプション)割り当てを直ちに有効化しない場合は、**[割り当ての有効化]** チェックボックスを外します。**[割り当ておよび調整]** ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
7. **[完了]** をクリックします。

注: Microsoft SQL Server 検出アスペクトをデプロイすると、「割り当ておよびデプロイメント ジョブを作成しました」というメッセージが表示されます。デプロイメント ジョブのステータスを確認するには、**[管理]** > **[監視]** > **[デプロイメント ジョブ]** を選択します。

タスク 4: 検出の確認

Microsoft SQL Server 検出アスペクトをデプロイした後、**[360° View]** に CI が表示されていることを確認する必要があります。

[360° View] に CI を表示するには、次の手順を実行します。

1. OMi コンソールで、**[ワークスペース]** > **[ダッシュボード]** > **[360° View]** をクリックします。
2. **[360° View]** ページで **MSSQL_Cluster_Deployment** または **MSSQL_Database_Deployment** ビューを選択します。**[360° View]** に CI が表示されています。

タスク 5: Microsoft SQL Server 管理テンプレートまたは Microsoft SQL アスペクトのデプロイ

Monitoring Automation for Composite Applications ライセンスを使用している場合、Microsoft SQL Server 管理テンプレートまたは Microsoft SQL アスペクトを SQL CI にデプロイできます。Microsoft SQL Server 管理テンプレートのデプロイの詳細は、「[タスク 5a: Microsoft SQL Server 管理テンプレートのデプロイ](#)」を参照してください。

Monitoring Automation for Servers ライセンスを使用している場合、Microsoft SQL アスペクトをデプロイできます。Microsoft SQL アスペクトのデプロイの詳細は、「[タスク 5b: Microsoft SQL アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。

タスク 5a: Microsoft SQL Server 管理テンプレートのデプロイ

CI が SiteScope や DDM などの他のソースによってすでに設定されていても、Microsoft SQL Server 検出アスペクトのデプロイは必要です。詳細については、「[タスク 3: Microsoft SQL Server 検出アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。

Microsoft SQL Server 管理テンプレートをデプロイする前に、次の推奨事項に従って、それぞれの環境に適した Microsoft SQL Server 管理テンプレートを特定する必要があります。

- スタンドアロンの Microsoft SQL Server 環境を監視する場合は、**詳細 Microsoft SQL Server 管理テンプレート**をデプロイします。
- Microsoft SQL Server クラスタ環境の基本的な機能を監視する場合は、**基本 Microsoft SQL Server クラスタ管理テンプレート**をデプロイします。
- Microsoft SQL Server クラスタ環境の詳細な監視を行う場合は、**詳細 Microsoft SQL Server クラスタ管理テンプレート**をデプロイします。
- エージェントおよびエージェントレス監視を行うには、**ハイブリッド Microsoft SQL Server 管理テンプレート**をデプロイします。


Microsoft SQL Server 管理テンプレートを Microsoft SQL Server CI にデプロイするには、次の手順を実行します。

1. [管理テンプレートおよびアспект]を開きます。

[管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアспект]

2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

[構成フォルダ] > [Microsoft SQL Server データベース] > [Microsoft SQL Server 管理テンプレート]

3. **[Microsoft SQL Server 管理テンプレート]** フォルダでデプロイする管理テンプレートをクリックし、 をクリックします。[割り当てとデプロイ] ウィザードが開きます。
4. **[構成アイテム]** タブで管理テンプレートを割り当てる CI をクリックし、**[次へ]** をクリックします。
5. (オプション)**[必要なパラメータ]** タブで、環境に基づいたパラメータを指定する必要があります。

注: Windows 認証を使用する Microsoft SQL Server の場合: ドメイン名、ユーザ名、パスワードを指定する必要はありません。

混在モード認証の場合: SQL Server ユーザのユーザ名とパスワードを指定する必要があります。

Microsoft SQL Server ドメイン認証の場合: システムのユーザ名、ドメイン名、パスワードを指定する必要があります。






ハイブリッド Microsoft SQL Server 管理テンプレートの場合: 割り当ては SQL Server 認証によってサポートされます。


注: 管理テンプレートのデプロイ時に入力したユーザ名は、Microsoft SQL Server への接続と

OMi MP for Microsoft SQL Server を監視するためのデータの収集に必要な権限を持つ必要があります。以下はそのガイドラインです。

- admin によって作成された事前定義ユーザ名がある場合は、管理テンプレートのデプロイ時にそのユーザ名を使用することができます。
- Management Pack によって提供されたユーザ作成ツールを明示的に使用する場合は、ユーザ名とパスワードを入力せずに管理テンプレートをデプロイする必要があります。これらは必須パラメータではないからです。

管理テンプレートをデプロイし、すべてのファイルがデプロイされた後に、ユーザ作成ツールを実行してユーザを作成し、監視を行う際にユーザ名とパスワードを更新します。

- リストの **[Microsoft SQL Server インスタンス ユーザ名]** パラメータを選択して、 をクリックします。[Microsoft SQL Server インスタンス ユーザ名] ダイアログボックスが開きます。
 - [値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。
 - リストの **[Microsoft SQL Server インスタンス パスワード]** パラメータを選択して、 をクリックします。[Microsoft SQL Server パスワード] ダイアログボックスが開きます。
 - [値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。
 - リストの **[Microsoft SQL Server ドメイン名]** パラメータを選択して、 をクリックします。[Microsoft SQL Server ドメイン名] ダイアログボックスが開きます。
 - [値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。
- [次へ]** をクリックして **[パラメータ サマリ]** に進みます。
 - [パラメータ サマリ]** タブでは、パラメータのデフォルト値を変更できます。パラメータのデフォルト値を変更するには、次の手順を実行します。
 - [MSSQL Server インスタンス名]** パラメータを選択して、 をクリックします。[インスタンスパラメータの編集] ウィンドウが開きます。
 - リストでパラメータを選択して  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

注: **[パラメータ サマリ]** タブでは、パラメータのデフォルト値を上書きできます。各パラメータの値は、管理テンプレートレベルで指定できます。デフォルトでは、エキスパートパラメータとして定義されているパラメータは表示されません。エキスパートパラメータを表示するには、 **[エキスパートパラメータの表示]** をクリックします。

- [次へ]** をクリックします。

9. (オプション)[構成オプション] タブで、割り当てを直ちに有効化しない場合は **[割り当ての有効化]** チェックボックスを外します。[割り当ておよび調整] ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
10. **[完了]** をクリックします。

タスク 5b: Microsoft SQL アスペクトのデプロイ

CI が SiteScope や DDM などの他のソースによってすでに設定されていても、Microsoft SQL Server 検出アスペクトのデプロイは**必要**です。詳細については、「[タスク 3: Microsoft SQL Server 検出アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。

Microsoft SQL Server アスペクトを Microsoft SQL Server CI にデプロイするには、以下の手順を実行します。

1. [管理テンプレートおよびアスペクト] マネージャを開きます。
[管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアスペクト]
2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。
[構成フォルダ] > [データベース管理] > [Microsoft SQL Server] > [Microsoft SQL Server のアスペクト]
3. **[Microsoft SQL Server のアスペクト]** フォルダで Microsoft SQL アスペクトを右クリックし、**[項目の割り当てとデプロイ]** をクリックして [割り当てとデプロイ] ウィザードを開きます。
4. **[構成アイテム]** タブでアスペクトをデプロイする構成アイテムをクリックし、**[次へ]** をクリックします。
5. **[次へ]** をクリックします。
6. (オプション)割り当てを直ちに有効化しない場合は、**[割り当ての有効化]** チェックボックスを外します。[割り当ておよび調整] ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
7. **[完了]** をクリックします。

ドキュメントのフィードバックを送信

本ドキュメントについてのご意見、ご感想については、電子メールでドキュメント制作チームまでご連絡ください。このシステムで電子メールクライアントが設定されていれば、このリンクをクリックすることで、以下の情報が件名に記入された電子メールウィンドウが開きます。

Feedback on インストールガイド (OMi Management Pack for Microsoft SQL Server 1.00)

本文にご意見、ご感想を記入の上、[送信]をクリックしてください。

電子メールクライアントが利用できない場合は、上記の情報をコピーしてWebメールクライアントの新規メッセージに貼り付け、docfeedback@hp.com宛にお送りください。

お客様からのご意見、ご感想をお待ちしています。